

そば新品種候補系統「北海6号（キタノマシュウ）」（普及推進事項）

北海道農業研究センター畑作研究部遺伝資源利用研究室
執筆担当者 北海道農業研究センター 本田 裕
六笠 裕治
鈴木 達郎

寒地向きそば品種「北海6号」は、「キタワセソバ」より草丈が低く、耐倒伏性にやや優り、良食味である。全道一円に適し、「キタワセソバ」の一部に置き換えて普及することにより、道産そばの安定生産に寄与する。

1 来 歴

「北海6号」は、北海道農業試験場（現北海道農業研究センター）において、耐倒伏性・短茎・多収そば品種の育成を目標として、平成7年に「キタワセソバ」集団（ M_0 ）約9,000個体中より発見・選抜した伸育性が有限の変異個体（ M_1 個体）に由来する系統である。その後、 M_1 集団を養成し、 M_2 世代にて集団選抜法に準じて有限性個体の選抜、無限性個体の淘汰を行い、特性の固定化を図った。平成9年に「キタワセD」の系統名で生産力検定予備試験に供試し、標準品種「キタワセソバ」より多収であることが認められたため、平成10年度より「芽系14号」の系統名で生産力検定試験、平成12年度に道外1農試において系統適応性検定試験に供試し、平成13年8月に「芽系14号」の名称で品種登録出願した。平成14年度より「北海6号」の地方系統番号を付し、道内4農試において地域適応性検定試験及び6現地試験、16年より現地試験を7カ所として供試してきた。その後、平成14年2月に「芽系14号」の名前で出願公表され、平成17年9月に「キタノマシュウ」の品種名で農林水産省に品種登録された。平成17年は M_{12} にあたる。

2 特性の概要

(1)形態的特性

草型は“直立・短枝型”、葉の大きさは“小”、花色は“白”で、いずれも「キタワセソバ」と同じである。分枝数は「キタワセソバ」より多い“やや少”である。花房数は「キタワセソバ」と同程度の“少”である。草丈及び主茎長は「キタワセソバ」よりやや短いが“かなり短”である。なお、形態に関して特筆すべき点は、伸育性が“有限”である（表1及び2）。

(2)生態的特性

生態型は北海道に適する“夏型”であり、開花期は「キタワセソバ」とほぼ同程度の“早”、成熟期は「キタワセソバ」と同程度の“かなり早”。子実収量は「キタワセソバ」と同程度の“中”である。耐倒伏性が「キタワセソバ」よりやや強い“やや強”である（表1）。

(3)品質特性

千粒重は「キタワセソバ」と同程度の“重”であり、容積重は「キタワセソバ」に比し9～31g程度重い“かなり重”である。製粉歩留りは「キタワセソバ」と同程度の“中”である。食味は「キタワセソバ」とほぼ同程度の“中”である（表1）。実需による製粉・製麺試験結果では、丸抜きの製粉歩留りが「キタワセソバ」と比較して高く（表2）、製麺時（操作性）が「良い～粘る」、製麺時（香り）「ふつう～やや強い」であり（表3）、食味試験では「甘味があり、良食味である」との評価を得た（表4）。

3 試験成績

表1 育成地及び道立農試における生育収量調査結果

試験 場所名	品種・ 系統名	播 種 期 (月日)	開 花 期 (月日)	成 熟 期 (月日)	草 丈 (cm)	分 枝 数 /株	倒 伏 程 度	子 実 重 (kg/ 10a)	同 左 比 (%)	千 粒 重 (g)	容 積 重 (g /L)	製 粉 歩 留 (%)	肝 ソ 含 量 (mg/ 100g)	シ ョ 糖 含 量 (mg/ 100g)	検 査 等 級
北農研 セウ-	北海6号	6. 3	7. 8	8.22	111	3.0	0.4	180	99	29.7	632	55.3	14.2	512	2~3
	ササユキ	6. 3	7. 8	8.21	112	2.3	1.1	182	100	29.3	601	55.5	16.7	483	2~3
	キタユキ	6. 3	7. 9	8.30	125	2.7	1.0	147	81	27.7	643	55.6	12.0	461	3~外
	北海6号	7. 4	8. 3	9.12	107	2.8	2.3	174	108	30.3	665	56.7	11.1	459	2~3
	ササユキ	7. 4	8. 3	9.12	117	2.5	2.8	161	100	29.2	636	57.0	13.3	469	3~外
	キタユキ	7. 4	8. 4	9.17	122	2.8	2.8	135	84	27.7	657	56.0	10.1	515	外
中央 農試	北海6号	6. 5	7.11	8.21	126	3.8	0.2	200	106	28.7	578	53.1	9.5	-	3
	ササユキ	6. 5	7.10	8.20	133	3.4	1.0	188	100	28.3	536	52.1	11.9	-	2~3
上川 農試	北海6号	6. 3	7. 7	8.16	116	3.4	0.5	233	100	28.1	554	52.9	14.2	-	3~外
	ササユキ	6. 3	7. 7	8.16	123	3.1	0.6	233	100	28.2	539	54.6	15.7	-	3~外
十勝 農試	北海6号	6. 3	7. 9	8.17	115	2.7	0.3	132	100	30.6	582	52.7	14.5	-	1~3
	ササユキ	6. 3	7. 9	8.17	115	1.8	0.3	132	100	29.5	538	52.9	18.5	-	1~3
北見 農試	北海6号	6. 3	7.17	8.18	101	3.0	0.5	200	97	30.5	591	56.3	13.1	-	3~外
	ササユキ	6. 3	7.13	8.18	103	2.4	1.1	206	100	30.0	584	56.0	13.3	-	3~外

注) 1. 道立農試のルチン含量は平14~16年の3ヶ年平均。

2. ショ糖含量は16年及び17年の2ヶ年平均値。

表2 実需者による品質評価(製粉性)(平14)

品種・系統名	篩(mm)当たりの丸抜き(%)								製粉 歩留り(%)
	5.0	4.7	4.5	4.3	4.1	3.8	3.6	>>	
北海6号	17.5	18.8	21.3	22.1	8.4	5.8	5.8	0.2	73.0
ササユキ(標準・対照)	7.6	15.3	21.7	27.6	11.5	8.1	8.1	0.2	72.0

表3 実需者による品質評価(製麺性)(平16~17)

品種・系統名	水回し時(操作性)	(香り強弱)
北海6号	良~粘る	ふつう~やや強い
ササユキ(標準・対照)	やや悪い~良い	弱い~やや弱い

表4 実需者による品質評価(食味試験)(平15~17年込み)

品種・系統名	色	香り	味	かたさ	そばらしさ	合計
北海6号	13.8	14.9	15.5*	14.6	15.0*	73.8**
ササユキ(標準・対照)	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	70.0

*, **: それぞれ、t検定により5%及び1%水準で有意差あり

(表2~4、全国蕎麦製粉協同組合A社協力)

4 普及見込地帯

北海道一円 200ha

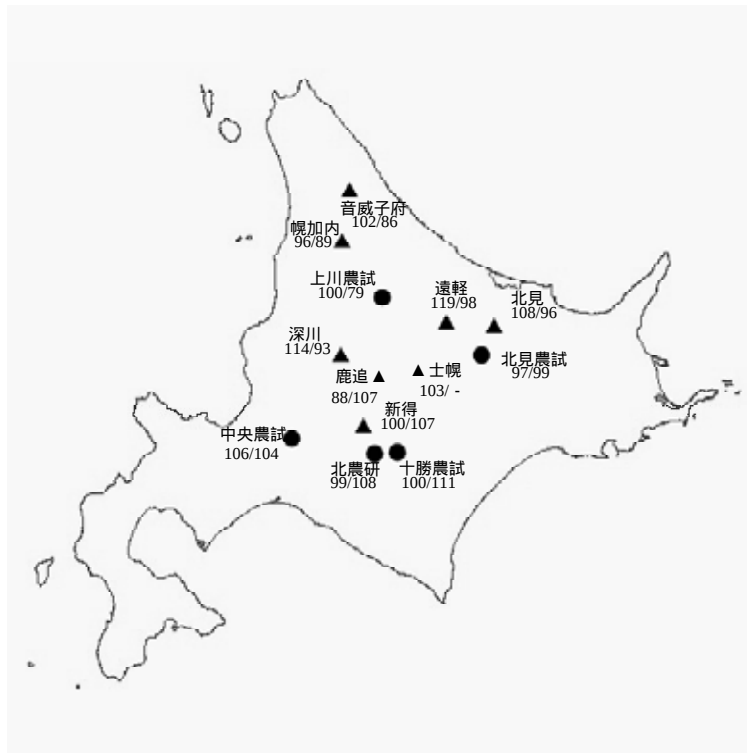


図2 北海6号の子実重の平均対比(%)

標準播(6月上旬)/晩播(6月下旬-7月上旬),
●:生検及び地産試験(北農研(14~17年)及び道立農試(14~17年)),
▲:現地試験(14~17年平均,新得:14及び15年,鹿追・土幌:16及び17年)

5 普及指導上の注意事項

- (1)他品種と交雑するので、集団的に隔離栽培する。
- (2)多肥もしくは晩播により倒伏しやすくなるので、適正施肥及び適期播種に努める。
- (3)「キタワセソバ」並に脱粒するので、適期収穫に努める。



写真 成熟期の草本写真

(平成17年 北海道農業研究センター産)

左: 北海6号,

中央: キタワセソバ(標準・対照),

右: キタユキ(比較)